

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究（小・中学校）」
平成24年度委託事業完了報告書
【推進地区】

都道府県名	山口県	番号	18
-------	-----	----	----

推進地区名	宇部市
-------	-----

○ 推進地区として実施した取組の内容

1. 重点課題への取組状況

【重点課題】

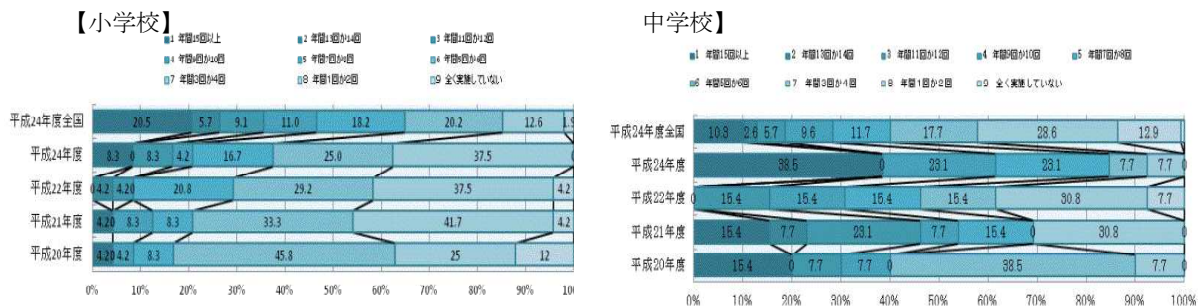
「学び合い」のある授業を基軸とした授業改善の推進

本市では児童生徒の学びと育ちを保障するため、これまでの教師が一方的に教え込む授業ではなく、児童生徒が主体となり、自分の考えたことを伝えたり友だちに説明したりする「学び合い」のある授業に市内全小中学校が取り組んでいる。

(1) 授業公開の推進について

平成23年度から一人一授業公開の実施を進めてきた。これに伴い市内各校の授業研究会の回数も増えてきた。特に中学校での授業研究会の回数は飛躍的に多くなった。本年度も積極的に授業を公開することで、授業改善を進めているところである。

【平成24年度全国学力・学習状況調査「授業研究を伴う校内研修会の実施回数」】



(2) 授業評価等の活用について

教職員の共通理解のもと、観点を決めて児童生徒の授業評価を推進している。また、授業参観日等の機会を活用し、保護者の授業評価を実施するとともに、同僚性のある研究協議会を実施することで、教員相互の授業評価も積極的に取り組んでいる。

(3) 学習内容の定着度の把握について

① やまぐち学習支援プログラムの学期末評価問題（7月、3月実施）及び学力定着状況確認問題（11月実施）の全学校での実施。

- ② 全国標準学力検査（小5・中1）の実施。
- ③ 全国学力・学習状況調査の全学校での実施。

上記、調査等を活用し、各校にてPDCAサイクルによる授業改善を推進した。また、教育委員会として推進校を含め、課題分析の提示と改善策について指導助言し、継続的に学力向上に取り組んだ。

(4) 校内研修の活性化について

- ① 「学び合い」のある授業に係わる研修会の実施
 - ・ 宇部市立小・中学校教職員研修セミナー（8月）
講師：三重大学教育学部准教授 岡野 昇
 - ・ 夏季・冬季ビデオ研修会（8月・1月）
講師：元祇園東中学校長 北川威子
対象：研修主任、管理職（校長・教頭）
 - ・ 管理職研修会（5月）
講師：元つくば市立並木小校長 根元光子
対象：校長

- ② 市内小中学校で公開授業研究会を実施（小学校3校、中学校13校）
「学びのスーパーバイザー（講師）」を教育委員会が各校に派遣
 - ・ 本年度派遣総数 35回（小学校7回 中学校28回）

- ③ 「学び合い」のある授業の先進校視察
 - ・ 島根県益田市立高津小学校
実施日10月12日（金） 参加者（小中教職員、市教委）39名
 - ・ 広島県広島市立早稲田中学校
実施日11月22日（木） 参加者（小中教職員、市教委）24名

このように、授業改善のために積極的に講師派遣や学ぶ機会を充実させてきた。また、公開授業研究会を推進することで各校の校内研修の活性化を図った。

(5) 小中連携の推進について

「学び合い」のある授業を基軸とし、小中9年間を見通した学習の取組を推進してきた。小中相互に授業交流（合同研修会など）や中学校教員による小学校への乗り入れ授業等、積極的に取り組んだ。

(6) 推進校（宇部市立神原中）について

- ① 公開授業研究会

【市内公開】

- 5月26日（土） 講師：元つくば市立並木小校長 根元光子
- 9月19日（水） 講師：元広島市立祇園東中学校長 北川威子

【県内公開】

- 2月14日（木） 講師：元富士市立岳陽中学校長 佐藤雅彰

- ② 成果報告会

- ・ 平成24年度市町教育員会「学力向上」担当者会議にて…2月22日（金）
- ・ 平成25年度校長集会にて（予定）…4月19日（金）

③ リーフレットによる成果提供について

- ・学校のホームページに記載
- ・市内各校への配付

2. 調査研究の成果の把握・検証

(1) 学校の体制づくり

「学び合い」をキーワードに

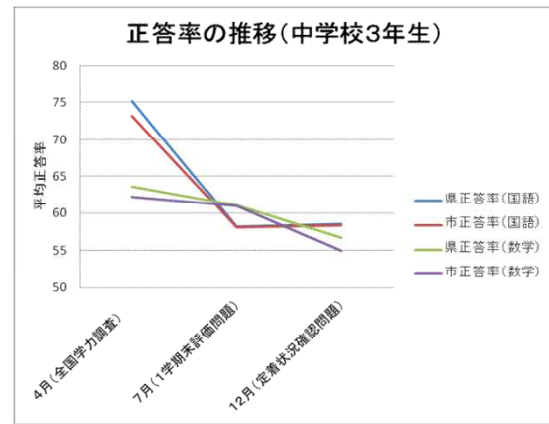
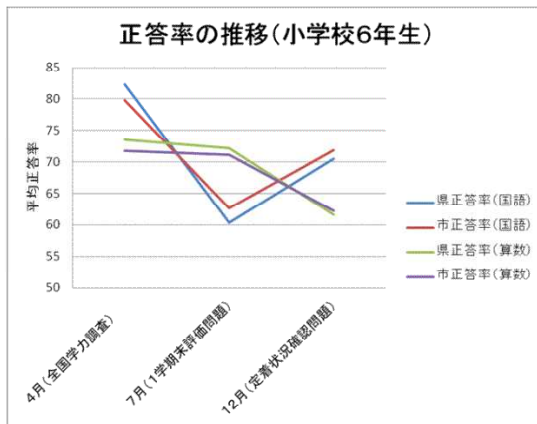
- ・子どもたちによる「学び合い」のある授業
- ・教師による「学び合い」のある研修
- ・学校と地域・保護者による「学び合い」のある連携

という3つの学び合いに取り組んだ。

各学校では、授業改善のめあてを「授業を開く」「学校を開く」とし、教師同士、及び地域や保護者も巻き込んだ授業評価や学校評価も積極的に行うことで、子どもたちの抱えている課題の解決に向け、「学び合い」のある授業づくりに取り組み、校内研修の体制づくりが推進された。

特に、各学校の全ての教師が一人一授業以上の公開授業と研究協議を行い、その授業で子どもがどう学んだかについて話し合う体制づくり（同僚性の構築）ができた。

(2) 各種調査の成果から



小学校6年生及び中学校3年生で実施した4月の全国学力調査、7月のやまぐち学習支援プログラム1学期末評価問題、12月のやまぐち学習支援プログラム学力定着状況確認問題での県との平均正答率の差を比べると、小学校6年生では、県との差が小さくなってきた。特に算数では県の平均正答率を上回った。中学校3年生では、国語については、県の平均正答率と同程度で推移したが、数学は県の平均正答率を大きく下回ることとなった。

推進校（神原中）については、12月の学力定着状況確認問題において県の平均正答率と比べると国語で4.8ポイント低く、数学では0.1ポイント高い。これは、4月の全国学力調査と比べると、同程度で推移したことになるが、「学び合い」のある授業を肯定的に捉えている生徒が9割を超える等(神原中アンケート)、授業改善が着実に進んでいることがわかる。

(3) 人材育成

本年度は「学び合い」のある授業づくりに係る講師を小・中学校に年間35回派遣し、授業づくりについての助言をしていただいた。また、ビデオ研修会や各種研修会を開催し、教師の指導力を高め、資質能力を向上させることができた。

3. 今後の課題

各種学力調査を分析すると、本市の児童生徒は基本的な学力は身につけているが、小学校、中学校とも国語や算数、数学の活用力に課題のあることがわかった。

各学校では、この結果をしっかりと分析し、子どもたちの課題やつまずきを把握した上で、校内研修につなげ、授業改善に活かす必要がある。

本市は、「学び合い」のある授業づくりを核として、校内研修会を活性化することに取り組んでいるところであるが、今後も本市の子どもたちの活用力の向上に向け、講師の派遣や、資質・能力を高めるための研修会を開催し、教員の更なる授業力向上に努める必要がある。